

〈当館へのメッセージ〉

神奈川県資料室研究会と県立川崎図書館

末廣 恒夫

神奈川県立川崎図書館の移転・再開館おめでとうございます。私たち神奈川県資料室研究会（神資研）は、2012年11月に神奈川県が県立川崎図書館の廃館と蔵書の県立図書館への移管の方針を明らかにして以来、県立川崎図書館の存続とさらなる充実を目指して活動を行って参りましたので、無事かながわサイエンスパーク（KSP）で再開館できたことを喜ばしく思っています。

神資研と県立川崎図書館

神奈川県資料室研究会は、神奈川県、近隣都県内の企業、大学、公共機関等の資料室、図書館、情報部門によって構成されており、月例会などの活動を通じて資料室等の運営向上とスキルアップに努めている団体です。1961年に県立川崎図書館の主催で設立された京浜地区資料室運営研究会を母体とし、1963年に独立の会員組織として設立されました。以来50年以上にわたって活動を続けています。2017年には、「50年以上の持続可能な活動とその実績に基づいた官民連携的な取り組みの成果」が評価され、Library of the Year 2017のライブラリアンシップ賞を受賞しました。授賞詳細では「川崎図書館の存続問題でも一定の役割を果たした点も評価する。」とも記されています。

神資研と県立川崎図書館の関係ですが、神資研の会長は県立川崎図書館長で、事務局は県立川崎図書館事業部企画情報課が務め、事業部長が事務局担当理事を務めています。会計は独立しており、主に会員の会費によって活動を行っています。月例会の会場として県立川崎図書館のカンファレンスルームを使用し、神資研会員は両県立図書館の資料の機関貸出を利用することができるなど、神資研にとって県立川崎図書館は非常に大きな存在です。県立川崎図書館が2010年に第12回図書館サポートフォーラム賞を受賞した際には、受賞理由として神資研の事務局を担当してきたこともあげられています。

また、2004年には神資研と県立川崎図書館との協力で科学技術系学術雑誌デポジット・ライブラリーの運用を開始しています。神資研の会員機関で保管が困難になった学術洋雑誌等を県立川崎図書館

に寄贈し、県立川崎図書館の所蔵資料として会員機関および県民に広く活用していただく制度です。デポジット・ライブラリーの資料は旧県立野庭高校の神奈川県教育委員会文化遺産課収蔵センターで保管し、資料の要求があると、県立川崎図書館が取り寄せて利用者に提供しています。

神資研の望む県立川崎図書館像

神資研は2016年1月13日に神奈川県知事に対して提案書「神奈川県資料室研究会の望む神奈川県立川崎図書館像」を提出しました。この提案書は、当時KSPへの移転は決まっていたものの、具体的な移転後の姿が提示されていない中で、神資研としてこのような県立川崎図書館であって欲しい姿を描いたものです。理事会で素案を作成し、会員からの意見を募集し、さらに2015年11月の図書館総合展の神資研主催フォーラム「神奈川県立川崎図書館の望ましい姿 さらに進化した科学と産業の情報ライブラリーに向けて」において広く一般の参加者からも意見をいただき全体討議を行い、検討してまとめたものです。末尾に提案書の本文全文を転載します。

電子ジャーナルの充実や開館時間の延長、神奈川県立図書館と独立した運営の維持など、今回の移転・再開館を通じて実現できているものもありますが、今後もこの提言で描いた姿を目指していただきたい。これからの県立川崎図書館の「ものづくり情報ライブラリー」としてのさらなる発展を期待しています。

提案書「神奈川県資料室研究会の望む神奈川県立川崎図書館像」

コンセプト：「さらに進化した科学と産業の情報ライブラリー」

〈蔵書〉（モノと電子）

●科学・産業系資料の充実（モノ）

現在のコレクションを分散させること無く維持した上で一層充実させ、関東圏における科学技術情報へのアクセス拠点となる。（国会図書館の科学

技術情報は主に関西館が所蔵)

- ・専門雑誌・技報・専門書籍・規格類・海外規格のさらなる充実
- ・社史(含む団体史・組合史)の一層の収集
- ・科学技術系外国語雑誌デポジット・ライブラリーの充実
- 会員機関からの寄贈・情報提供の拡大
- 電子情報へのアクセス(電子)
- ☆電子ジャーナルの充実
- ☆電子書籍の導入
 - ・データベース提供のさらなる充実
- ☆STNなどの海外文献データベース
- 特許情報のさらなる充実(電子)
- ☆外国特許へのアクセス(商用データベース)
- ☆特許解析ツール・特許MAP作成支援

<サービス>

- 所蔵資料を活用した企画展示のさらなる活発化
 - ・社史フェアの継続
 - ・「川崎公害裁判訴訟記録」等のコレクションを活用した企画
- サイエンスカフェ等各種講演会・イベントの継続
- 図書館ホームページ等を活用した情報発信の強化
- ☆SNS(Twitter、Facebookなど)の活用
 - ・オリジナルコンテンツの一層の充実
- 創業・経営相談、発明相談の継続
 - ・県の産業振興施策との連携強化
 - ・川崎市の中小企業支援活動との連携強化
- 遠隔利用の充実
 - ・在宅複写サービス・郵送貸出サービスの利用促進
- ☆データベースの遠隔からのアクセス
- ☆電子ジャーナルの遠隔からのアクセス
- 平日でもビジネスマンが利用できるよう、開館時間の延長

<運営面・立地面>

- 「さらに進化した科学と産業の情報ライブラリー」を運営する専門性の高い司書のさらなる養成
- 「さらに進化した科学と産業の情報ライブラリー」としての機能を果たすために、神奈川県立図書館と独立した運営の維持
- ・総合図書館における1サービス部門の位置づけではなく、独立した専門図書館としての位置づけが必要
- 神奈川県と川崎市とで協議の上で、現在の資料を維持・発展させることのできる十分なスペースの確保(延べ床面積3万㎡規模以上 最近の図書館新設の状況を踏まえて)
- 県の産業政策・川崎市の産業政策との連携強化

参考 URL

神奈川県資料室研究会

<https://saas01.netcommons.net/shinshiken/htdocs/>

Library of the Year (LoY) 2017 LoY2017 優秀賞・ライブラリアンシップ賞の決定について
<https://www.iri-net.org/loy/loy2017result/>

図書館サポートフォーラム賞

http://www.nichigai.co.jp/lib_support/lsf_award.html

神奈川県資料室研究会の望む県立川崎図書館像について

https://saas01.netcommons.net/shinshiken/htdocs/?page_id=183

すえひろ・つねお

(神奈川県資料室研究会 副会長)

以上